

3. 寄稿：次世代のために・・・持続可能な開発目標と国土強靱化計画

(Japa 正会員、(一社)レジリエンス協会 常務理事、(有)藍流経営研究所 田中和明)

昨今、国連提唱の SDGs が話題だ。持続可能な開発目標と国内では周知されているが、世界ランキングで昨年と比して今年は順位を 166 カ国中 17 位から 165 カ国中 18 位に下げている。その評価に疑問を持つものも多いと思われるが、真摯に受け止めることも必要であろう。

▼2021 年日本の SDGs 達成度は 18 位 | 日本政府の取り組みを解説、2021.06.16、SDGS media
<https://sdgs.media/blog/4130/>

国内では、政府主導の下、国土強靱化計画が進行している。災害大国と言われる日本としては必然である。

私は建設業界に 15 年間、そしてその後リスクマネジメントの世界に入って 16 年間が経過した。このような経緯からか、建築および空間のリスクに関することが頭から離れない。建築民間営業にも携わっていた経緯があり、そのリスクはハード、ソフト関わらず、あらゆる方面から検討しなくてはならないと痛切に感じている。

国内の建築不動産に関するハード面における法規は建築基準法を始めとするいわゆるサステイナブルを目指して体系化されている。様々な対応が法制化され、この課題に対して当然コストも跳ね上がってくる。かたやソフト面でも同様にサステイナブルな相続、事業承継を目指して法制度が確立されているはずである。

日本では以前から、インフラ、建築面ではサステイナブルな国土を構成すべく法制度が確立している。にもかかわらず、海外に比べて日本の住宅の寿命は短いという。何故か？「サステイナブルな法制度は機能しないのか？」ことあるごとに私は自問してきた。

模索を続けているうち、10 年程前にレジリエンス(強靱力と訳される)という言葉に出会った。レジリエンスは「しなやかさ」等様々な表現も用いられていたが、ここで改めてサステイナブルと合わせてこの言葉の意味を踏まえて考えてみたい。

本来、「持続可能」は英語の Sustainable サステイナブル、「強靱化」は Resilience レジリエンスという英語からきている。

サステイナブルは国内では「持続可能な」と訳されているが、微妙なニュアンスの違いを私は感じている。「Sustainable」の語源を遡っていくと「bear」「suffer」「endure」から「continue」へと時代を超えて意味が変化してきている。文明の発達とともに苦境に耐えて生活していくことが基本原則ではなくなり、さらに良い生活環境を築いていこうとする人間社会の現状を表しているとも言える。

一方、レジリエンスという言葉の語源は「re-leap」、更には中世ヨーロッパ時代の「復権」が根本由来となる。

東日本大震災後の福島第一原発に、レジリエンスは当てはまらなかった。誰が見ても明らかのように、サステナブルを確立させてもレジリエンスな建築物ではなかった。結果、瓦礫の山つまり莫大な産業廃棄物の塊となってしまったのである。現在ではその処分もままならない。持続可能の極限を目指したにも関わらず非常に重要な問題を次世代に残すこととなっていることを忘れてはいけない。

「ものづくり大国」日本の技術に足りない要素はあったのか？ 私は技術のみだけではなく取り巻く仕組みも重要と考えている。

企業経営における経営資源については、人・モノ・金・情報が重大な要素ではあるが、コントロールできるもの、コントロールできないものを仕分けし、そのプロセスを仕組み化していく必要があると考える。このコントロールを確立する仕組みがサステナブルであり、コントロールできなくなったものをカバーし、コントロール可能なようにする要素をレジリエンスと私は捉えてBCPの支援をさせていただいている。

現場で実際に多面的に考察していくと、ビジネスのプロセス、フローのアセスメントがサステナブル、レジリエンスの確立のために各段階で重要となってくるのである。

所属する一般社団法人レジリエンス協会 <https://resilience-japan.org/> では6つの研究会が立ち上がり、それぞれ様々な角度からレジリエンスを追求している。

私も参加する「レジリエントな都市研究会」で調査したロックフェラー財団およびARUPが提唱する都市レジリエンス指標 <https://cityresilienceindex.org/> では「都市の人々が、どのようなストレスや衝撃に遭遇しても生存し繁栄する能力」が確立されている。ここでは「健康と福利」「経済と社会」「インフラと生態系」「リーダーシップと戦略」の4つの領域を細分化し、重要な7つの特質から評価を試みようとしている。

また、一般社団法人減災サステナブル技術協会の「防災・減災×サステナブル大賞」<https://ssmartace.or.jp/sustainable-grandprize/> 選定の支援もさせていただいている。この賞は様々な自治体、組織、法人、個人を対象として、レジリエンス性、サステナブル性、並びにSDGsへの寄与度の観点から総合的かつ客観的に評価し、第三者評価による差別化と認知度向上ならびにその成果・実績等の普及を意図している。

より安全・安心な真のサステナブルな社会の実現に向けた防災・減災における取り組みへの先進事例として「より良い未来の実現」に向けた礎となれば幸甚である。